

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 50 号:2018 年 4 月－5 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2018年 第 1 四半期の GDP は前年同期比 5.1% 増の 64 兆 9,000 億スムに

国民一人当たりの GDP は前年同期比 3.3% 増の 198 万 6,000 スムに達した。GDP の成長への寄与度が最も大きかったのは、4.4% 成長したサービス分野であった。鉱工業付加価値は 5% 増加した。2018 年 第 1 四半期の所有形態別の GDP 構成比は、民間部門が 78.8%、公的部門が 21.2% であった。

2018年 4 月 1 日時点の金・外貨準備が 280 億ドル超に

金・外貨準備は 285 億ドルで、そのうち外貨準備は 145 億ドル（前月比 1 億 9,800 万ドル減）、金準備は 139 億ドル（前月比 3 億 5,500 万ドル増）に達した。

2018年 第 1 四半期の貿易額が 79 億 1,700 万ドルに

輸出額は前年同期比 59% 増の 40 億 8,400 万ドル、輸入額は 45.2% 増の 38 億 3,500 万ドルに達した。前年同期の貿易収支は 7,290 万ドルの赤字であったが、今期は 2 億 4,940 万ドルの黒字であった。

輸出額のうち最大の割合を占めたのはサービスで 11 億 800 万ドル（40.5% 増）、エネルギー資源・石油製品が 5 億 5,640 万ドル（91.4% 増）、化学製品が 2 億 3,770 万ドル（10.7% 増）、鉄・非鉄金属が 1 億 8,770 万ドル（4.6% 減）、食品が 1 億 7,540 万ドル（49.9% 増）であった。主な輸出相手国は、第 1 位が中国で輸出総額の 15.3% を占め、ロシアが 11.6%、カザフスタンが 5.7%、トルコが 5.3%、アフガニスタンが 4.3% であった。

輸入額のうち最大の割合を占めたのは機械・機器で 14 億 3,700 万ドル（42.5% 増）、化学製品が 5 億 5,290 万ドル（14.8% 増）、食品が 4 億 7,090 万ドル（37% 増）、鉄・非鉄金属が 3 億 7,730 万ドル（44.9% 増）、サービスが 3 億 500 万ドル（72.2% 増）であった。主な輸入相手国は、第 1 位がロシアで輸入総額の 26% を占め、中国が 19.6%、カザフスタンが 9.1%、韓国が 8.0%、トルコが 4.7%、ドイツが 3.8%、ベラルーシが 2.7%、ラトビアが 2.0%、ウクライナが 1.7%、リトアニアが 1.6%、米国が 1.4%、インドが 1.3% であった。

2017年の貿易額は270億ドルに達し、そのうち輸出額は140億ドル、輸入額は約130億ドルであった。

2018年1～4月期のウズベキスタン向け国際送金額は約13億ドル

ウズベキスタン中央銀行が、送金に関する統計データの発表を開始した。2017年11月から、国際送金の利用者に対し、自動両替によるウズベキスタン・スム建ての国際送金の可能性が提供された。

貿易

ウズベキスタンは6,200以上の品目につき欧州連合(EU)向け輸出免税の適用を受けようとしている

5月23日、ジャムシド・ホジャエフ対外貿易大臣が、EU東欧・中央アジア評議会のワーキンググループとの会談において、上記の意向を表明した。現在、ウズベキスタンは一般特惠関税制度(GSP)の適用を受けており、EU向けに免税で3,000品目および軽減税率で3,200品目を輸出することができる。GSPプラスによる優遇制度の適用を受けた場合、ウズベキスタンは6,200以上の品目につき免税で輸出できるようになる。その結果、ウズベキスタンはより多くの繊維製品、果実・野菜製品、輸送サービス、電気製品などを輸出することが可能になる。

ウズベキスタンは4～5年で世界貿易機関(WTO)加盟プロセスを完了する意向

ウズベキスタン商工会議所のアドハム・イクラムフ会頭が、ウズベキスタン・ドイツ・ビジネスフォーラムにおいて上記の意向を発表した。ウズベキスタンは1994年にWTOへの加盟を申請した。現在までに加盟作業部会の会合が3回開催されたが、2005年を最後に、それ以降は開催されていない。その後のウズベキスタンの加盟交渉プロセスは消極的で、政府は加盟各国との連携を図ってこなかった。

2017年、シャフカト・ミルジヨエフ大統領が韓国訪問に際してWTO加盟交渉の再開を発表した。韓国は加盟交渉プロセスを支援する意向を示した。そのために特別諮問評議会が設置され、ロードマップに署名が行われた。韓国側は、加盟の影響の評価、国内法令をWTOの各協定の要件に整合させるための鑑定作業を通じ、ウズベキスタンに対して支援を行う予定である。

中国はウズベキスタンから輸入する農産品を2品目から12品目に増やす可能性がある

現在、ウズベキスタンは、中国にサクランボと緑豆を輸出している。2018年4月26～30日に実施されたウズベキスタン国家検疫局と中国検疫局の協議において、中国側が、メロン、ブドウ、ザクロ、アンズ、ネクタリン、プラム、カキ、イチジク、レモン、ピーナツ

ツの輸入を開始する用意がある意向を表明した。現在、共同の試験所およびウズベキスタンの輸出業者のための「グリーンライン」の設置に関する検討が行われている。中国側は、両国検疫局の協力協定ならびにその他の文書の締結を検討する用意がある意向も表明した。

金融・投資セクター

ウズベキスタンがドイツ企業にタシケントの工場「アルゴリズム」跡地に特別工業区の設置を提案

また、工業区の運営をドイツ企業の一社に任せることも提案された。この提案は、2018年5月に開催されたドイツ・ウズベキスタン・ビジネス評議会の第4回会合においてアブドゥラ・アリポフ首相が行ったものである。ドイツの大手企業、中小企業および銀行の担当者70名以上がドイツの代表団メンバーとして参加した。

さらに、アリポフ首相は、ウズベキスタンは設置済みの14の自由経済区および80以上の小規模な工業区においてドイツ企業と積極的に協力する用意があり、自由経済区の投資家は長期にわたり税金と関税を免除され、工業区の投資家は投資を行い新たな雇用を創出するという条件の下、無償で工場用地を利用することができる」と述べた。また、ドイツ側に対し、ウズベキスタンにおいてドイツ企業の利益を代表するドイツ・ウズベキスタン貿易会議所をタシケントに開設する可能性について検討するよう提案がなされた。

2017年の両国の貿易額は前年比32.5%増の6億ユーロに達した。

ウズベキスタンは欧州投資銀行(EIB)の最初の融資約4億ユーロを2018年10月にも受け取る見込み

EIBの融資による最初のプロジェクトが計画されているのは、省エネ、水資源管理、インフラ開発、熱供給、鉄道建設、自動車製造といった分野である。たとえば、EIBは、マイクロバスと商用車を製造する合弁企業Uzbekistan Peugeot Citroen Automotiveに6,000万ユーロを供与する予定である。現在、EIBは、中小・民間企業向け融資の分配を仲介するウズベキスタンの銀行を選定している。

5月18日、ロンドン証券取引所にウズベキスタン・スム建ての国際金融公社(IFC)債「サマルカンド・ボンド」が上場

発行額は800億スム(1,000万ドル)で、償還期間は2年、金利は年率9.5%である。これは、国際資本市場において初めてのウズベキスタン・スム建て債券の発行となった。欧州の資産運用会社3社との間で債券の販売に関する契約が結ばれた。ブローカー会社ING Capital Marketsがこれらの取引をオーガナイズした。債券発行による収入は、ウズベキスタン国内の中小企業プロジェクト向けの融資を目的としたハムコルバンクにおけるスム建ての与信枠の開設に充てられる。

エネルギー・セクター

2018年7月、ウズベクネフチェガスの今後10年間の投資プロジェクト・ポートフォリオが承認される予定

大規模な投資プロジェクトの実施については、外国投資家の誘致が計画されている。また、ウズベクネフチェガスは、国際コンサルティング会社の協力により、石油・ガス部門長期開発コンセプトの策定を開始した。現在、ウズベキスタンの石油・ガス部門では、総額90億ドル以上の投資プロジェクトが実施されている。短期的展望において同部門にとって重要なプロジェクトは、ジザク製油コンプレクスおよびGTLプラントの建設である。

ガスプロムとウズベクネフチェガスがシャフパフティ鉱床の開発にかかる生産物分与協定の第二追加協定を締結

第二追加協定はサンクトペテルブルグ国際経済フォーラムにおいて締結された。同協定では、インフラ整備済みの鉱床において従来通りの条件により2024年までガスの生産を継続することを計画している。2017年のガスプロムによるウズベキスタン産ガス購入量は55億m³であった。

ウズベキスタンがトルクメニスタン～アフガニスタン～パキスタン～インド(TAPI)国際ガスパイプライン・プロジェクトに参加

4月、トルクメニスタンを訪問したミルジヨエフ大統領が記者会見で上記について発表した。同大統領は、「我々はトルクメニスタンの友人とともに接点を見出し、この壮大なプロジェクトに参加するつもりだ」と述べた。両国大統領は政府に対してウズベキスタンのTAPIプロジェクトへの参加の指標に関する協議の開始を指示した。

輸送・機械工業セクター

ウズアフトサノアトはGeneral Motors(GM)のウズベキスタン国内の二つの工場の資産を買収し、欧州およびアジアの大手自動車メーカーを誘致しようとしている

現在、GMはアサカ自動車工場の株式の10%を保有している。ウズアフトサノアトは2018年末までにこの株式を買収し、工場を改称する予定である。これと並行して、GMが株式の70%以上を保有する自動車エンジン工場GM Powertrain Uzbekistanの買収に関する交渉も行われている。これについても2018年末までには合意が成立する見込みである。GMは技術協力のためウズベキスタンに残り、ウズアフトサノアトは今後もChevroletブランドの自動車を製造することができる。さらに、Volkswagenのようなブランドをウズベキスタンに誘致する計画もある。

ナマンガンでは、Hyundaiの積載量1～50 tのトラック、長距離路線バス、観光バスおよび特殊車両の組立が開始される予定である。Hyundaiの自動車生産に関する合意は、2017年11月のミルジヨエフ大統領のソウル訪問に際して成立した。第一段階では、1日8～20台、すなわち年間1,000台の自動車が生産される予定である。その後3年で生産能力は年間3,000台、すなわちトラック2,000台およびバス1,000台に拡充される。最初は韓国から部品を輸入するが、その後は一部を現地生産する予定である。

また、ウズアフトサノアトの担当者は、同社が電気自動車の生産の可能性について検討していると発表した。2018年夏には、Chevrolet Boltと中国のJACの2種類の電気自動車が試験のために輸入される。アンディジャン州からカラカルパクスタン共和国に至るまで、ウズベキスタン全国で走行試験が実施される予定である。

ウズアフトサノアトは2018年末までにロシアで乗用車工場用地を決定する計画

ウズアフトサノアトはロシア側とともに、サンクトペテルブルグ、カラチャイ・チェルケス共和国、トリヤッチ、ニジニノヴゴロドにおけるGM Uzbekistanの自動車のSKD生産の可能性について検討してきた。サンクトペテルブルグでは過去にGMの自動車が生産されていたことがあるため、ウズベキスタン側は、同市が工場用地として最適であると指摘している。今後の課題は、生産するモデルの決定とGM側から最終的な許可を得ることである。